

令和3年度 学習分析事業 改善計画 三原市立中之町小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	50.9	52.3	51.7	49.8	48.2	50.5
算数	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	50.7	52.4	51.9	51.3	45.8	50.3
理科	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	/	/	51.3	46.8	44.7	47.6
全体	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	50.8	52.3	51.6	49.3	46.2	50.0

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数
目標値 (対県比)	/	/
結果 (対県比)	65 (98.4)	67 (95.7)

2. 調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)
<p>国語科</p> <p>●情報を選び構成を考えて話す(43.8%)。話や意見の背景を考えて話し合う(58.2%)。</p> <p>国語科において情報を集めて構成を考えること(29.7%)、考えや感想をまとめて伝える(44.2%)等まとめる力が弱い。また、全体的に、話す・聞くの内容に課題が見られた。</p> <p>算数科</p> <p>●第4学年での二等辺三角形、角、円(57.9%)(4年生)等、多くの学年で図形の領域に課題が見られた。また、高学年になるにつれて、整数の性質(30.5%)単位量あたり・速さ(28.6%)(6年生)等のように、数と計算の領域に課題が見られた。</p>	<p>国語科</p> <p>●目的に応じ、話の内容が明確になるように、スピーチの構成を考える(66.7%)。文章全体の概要を読み取ることができていない。「はじめ・中・終わり」の構成をとらえることができていない。</p> <p>●目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見つける(29.6%)。図や文章から読み取ったことを、条件に沿って書くことができていない。また、条件に合った文章を読み取ることができていない。</p> <p>算数科</p> <p>●複数の図形を組み合わせた平行四辺形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる(33.3%)。自分の求めた方法について説明する力が十分定着していない。</p> <p>●データを二次元の表に分類整理することができる(46.3%)。帯グラフで表された複数のデータを比較することができる(55.6%)。表やグラフの見方が分かっておらず、データ活用の力が定着していない。</p>

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭で「問いの設定」を意識した授業づくりを行う。</p> <p>○全教諭がICTを活用した個に適した授業づくりを行う。</p> <p>○全学級の授業において、導入での問題提示や必要感のある課題提示を工夫する。</p> <p>○全学級の授業において、児童の達成感を感じさせる場面を設定する。</p>	<p>①全体研修による目指す子供たちの姿(資質・能力が発揮された姿)の設定と共有により、日々の授業に生かす。(相互授業観察)</p> <p>②授業研究及び協議会による目指す授業を共有し、「問い」から「まとめ・ふ振り返り」までの授業展開を改善する(課題とまとめの整合性はどうか?、45分内に適応題と振り返りまで実施し児童の理解度を評価できたか?)</p> <p>③全国学力・学習状況調査の誤答分析による課題を把握し、各学年ごとに関連単元を明らかにし、指導の重点を把握して授業を行う。授業でのノート指導および交流(自分の考えを説明する文章を記述しているか?、条件にそって書くことができていないか? 等)</p> <p>④中・町算数検定の実施および苦手分野を分析し、補充学習を行う。</p> <p>⑤チャレンジタイムの充実(内容はNRT及び全国学力・学習状況調査の分析結果に基づく苦手分野から抽出)</p> <p>⑥1月に標準学力調査を実施し、課題分析のもと指導の不十分な分野を明らかにする。それをもとに、3月に改善した授業(教え直し)を行う。(国・算・理)</p> <p>⑦理科の授業改善とともに学習内容を定着させる。(専科教諭と担任との連携を行い、宿題や自主学習等を定期的に取り入れる。)</p> <p>⑧ICT研修を実施する。</p>	<p>①6月および7月(授業研究・相互授業観察月1回以上)</p> <p>②年間全員1回授業実施 毎月授業者アンケート実施</p> <p>③校内研修(関連単元の把握) 毎月ノート交流</p> <p>④学期に1回</p> <p>⑤週に3回(水曜は活用問題に取り組み)</p> <p>毎月末にミニテストを実施し一苦手な分野の教え直し→再テスト</p> <p>⑥1月初旬にテスト実施→課題分析→授業改善による教え直し→再テスト</p> <p>⑦単元末ごと</p> <p>⑧月1回以上</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点+1以上)</p> <p>・各学期まとめテスト平均値(全学級80%以上)</p> <p>・思考・判断・表現に関わる単元テスト平均値(全学級80%以上)</p> <p>・授業者アンケート実施(肯定的回答が80%以上)</p> <p>・ノート交流(考えを説明する文章、条件に沿った文章が書けている児童が学級で90%以上)</p> <p>・算数検定(全員100点になるまで)</p> <p>・チャレンジタイムミニテスト(80点以上を80%以上)</p> <p>・標準学力調査(全国平均以上)</p> <p>・「クロームブック活用推進プロジェクト」の達成率90%以上</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○全学級において、学習ルール、環境整備を徹底できるようにする。</p> <p>○全学級において、一人一人の役割を明確にし、居場所を実感できる場の設定や掲示を工夫する。</p> <p>○全学級において、二次支援や三次支援にいる児童への手立てや学級での取組を交流する。</p>	<p>①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案</p> <p>②学校経営会議において各学級実態と改善計画の共有</p> <p>③暮会で長期欠席児童や学級の問題行動等についての情報共有</p> <p>④全体研修における改善計画の実施についての交流</p> <p>⑤学級づくりに関わる校内研修の実施</p> <p>⑥児童会主体の取組の充実</p> <p>⑦学校行事・児童会行事において、目標達成のために手立てを設定し、頑張りを認める場の設定</p>	<p>①6月</p> <p>②7月</p> <p>③週1回</p> <p>④8月</p> <p>⑤月1回</p> <p>⑥年間</p> <p>⑦月1回以上</p>	<p>・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上)</p> <p>・Q-U2回目の一次支援の数値(全学級で70%以上)</p> <p>・児童会による生活目標に対する振り返り(全学級で肯定的評価90%)</p>